



698 篠原長房書状

就御寺領物集女庄野之儀、

芳書令拝見候、様躰無案内之儀

候条、三向可申談候、

有様之上不可存疎意候、

仍青銅參十足被懸御意候、

本望之至候、猶追而可得貴意候、

恐惶謹言

十一月十三日 長房(花押)

出官

奉行

单寮

臨川寺

雲居庵

御報

(解説)

永禄九年(1566)十二月十三日の文書と推定されている。篠原長房は、阿波国の三好氏の家臣。室町幕府十四代将軍の足利義榮を奉じて、畿内の上陸し、その存在感を示した。

この文書は、政情が安定しなかった京都周辺の状況を表したものである。

天龍寺領の山城国物集女庄(現在の京都府長岡京市周辺)の知行を引き続き天龍寺が望み、篠原が、その意を三好長逸に伝えたとある。

戦乱が広がるにつれて、天龍寺の寺領が、荒らされていくことになる。